

機関番号：13901

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2010

課題番号：21730410

研究課題名(和文)

病者・障害者の当事者運動に関する比較研究

研究課題名(英文)

Comparative Analysis for Social Movements of persons with Illnesses and Disabilities

研究代表者：

渡辺 克典 (WATANABE KATSUNORI)

名古屋大学・環境学研究科・研究員

研究者番号：60509181

研究成果の概要(和文)：

病者・障害者による当事者運動組織を分析する枠組みについて検討し、いくつかの運動組織・団体について分析した。当事者運動については、組織間ネットワークを全体像として把握し、ネットワーク構造を分析する枠組みを提示した。また、いくつかの当事者運動について、日本の福祉政治を背景とした分析をおこなった。成果については、学会報告・シンポジウム開催・報告書のほか、ウェブサイトでも公開した。

研究成果の概要(英文)：

This study indicates a framework for analysis of social movement organizations of persons with illness and disabilities. First, the study develops analytical framework that can be associated with the political system and the network structure. Second, the analysis was done for some organizations: Aoi Shiba no Kai, Yutaka Fukushi Kai, etc. These results published a symposium, conferences, reports, and on the website.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：当事者運動、組織間ネットワーク

## 1. 研究開始当初の背景

福祉国家体制は、私たちの生活のリスクを社会的に再配分し、よりよい社会を形成するための社会保障をなす重要なアクターである。だが同時に、福祉国家体制下において、社会保障を求める交渉をおこなう病者・障害者による当事者運動もまた、「新しい社会運動」(A. Melucci)として重要な位置を占めるアクターである。しかし、当事者たちによる組織が福祉国家体制においておこなってきた活動やその政治的な位置づけについての包括的な研究はおこなわれていない。この原因として、以下の3点を挙げることができる。

(1) 病者・障害者をめぐる研究はそれぞれの個別的な研究にとどまってしまうがちである。当事者運動においては、1970年代の脳性まひ(CP)症候群患者による「青い芝の会」をめぐる研究が、田中耕一郎『障害者運動と価値形成』(2005年、現代書館)、山下幸子『「健常」であることを見つめる』(2008年、生活書院)などがおこなわれているが、それらの研究は個別の当事者運動を分析した研究にとどまっており、病者・障害者による当事者運動全体における位置づけの研究には結びついていない。

(2) 当事者運動の活動が「ケア」などをキーワードとした側面でのみとらえられてしまっている。代表的な例としては、アルコール依存症（アルコリズム）者のセルフヘルプ・グループ（SHG）をめぐる研究を挙げることができる。社会学者によるアルコール依存症者の当事者活動の分析としては、野口裕二『アルコリズムの社会学』（1996年、日本評論社）などの研究蓄積がある。だが、これらの研究は、アンソニー・ギデنزが展開した近代化論（とくにアディクションをめぐる分析）を下敷きとしつつ、医療におけるナラティブ・ベイスド・メディスンとよばれる研究と親和性を示しながら、SHGがもつ治療的な側面のみを分析した研究にとどまっている。

(3) さらに、もっとも大きな問題として、それぞれの病者・障害者の当事者運動を比較するための分析枠組みがないことを挙げることができる。それぞれの病者・障害者にとって、個別的な病気・障害の違いがあるのと同時に、当事者団体がもつ歴史的なちがひがある。ただし、これらの事例を比較した研究がないわけではない。たとえば、前述した田中『障害者運動と価値形成』は日英の歴史に着目した比較研究をおこなっている。また、伊藤智樹はSHGにおけるナラティブに着目した比較研究に取り組んでいる。しかし、日本国内における活動全体について比較分析する研究はおこなわれていない。

## 2. 研究の目的

本研究は、病者・障害者による当事者運動の政治的活動やその影響について明らかにすることを目指している。これまでの病者・障害者による当事者運動に関する研究は、個別的な分析にとどまっているか、治療との関連に分析が偏ってしまっている。本研究では、病者・障害者による当事者運動を取り上げ、代表的なケースにおける政治的な活動について比較研究を試みる。

本研究は、上記の目的のためのパイロット・スタディである。第1に、病者・障害者による当事者運動を分析する分析枠組みを提示する。第2に、いくつかの当事者運動を選定し、比較研究をおこなう。

(1) 各当事者運動を分析する方法を確立する必要がある。これまで病者・障害者による個別の当事者運動が検討されながら、それぞれの運動を比較する研究がない。この理由として、各当事者運動を分析する方法が確立されていないことを挙げることができる。とくに、それぞれの病気・障害のみの国際比較や、ナラティブ論などにもとづいた比較をするの

ではなく、日本国内における病者・障害者による当事者運動の比較を可能にするような方法論を提示する必要がある。本研究では、そのための指標の作成を目指す。

(2) 上記で検討した方法論を用いて実際の当事者運動を分析する。病者・障害者による当事者運動にはさまざまなものがあり、その違いにより比較研究が困難となっている。しかし、指標をつくりだすことで比較研究をおこなうことは可能である。そのため、本研究では、代表的な当事者運動を選定し比較研究をおこなうことを目指す。

## 3. 研究の方法

(1) 当事者運動の比較研究の方法論について検討する。本研究では、対象とする当事者運動の特性から社会学・政治学における定性的な方法論を中心として理論的検討をおこなう。

(2) いくつかの当事者運動について比較研究をおこなう。ただし、今回の研究では比較研究は代表的な事例のみを対象とする。

## 4. 研究成果

病者・障害者による当事者運動組織を分析する枠組みについて検討し、具体的な運動組織・団体について分析した。また、学会・ワークショップ・シンポジウムでの報告を積極的におこない、冊子報告書を作成して成果の発信につとめた。成果の一部については、ウェブにも公開した。

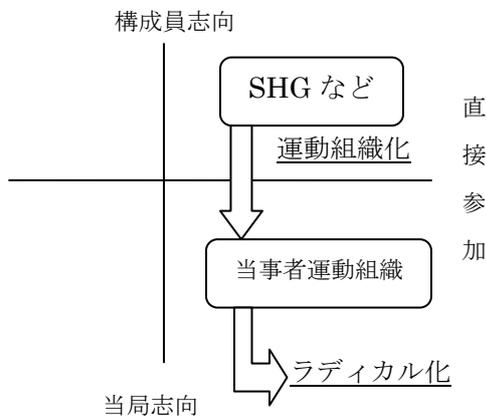
(1) 比較研究のための方法論の検討については、とくに日本における福祉政治や実際の障害者運動について資料を収集し、それらを背景としながら社会運動に関する方法論について理論的な検討をおこなった。これらの成果については、シンポジウムや学会発表をおこない、報告書として公開したほか、論文として投稿準備中である。

① 病者・障害者の当事者運動の背景には、それぞれの病気・障害をめぐる政策の違いがある。これらの側面は社会運動をめぐる構造的な誘発性として位置づけることができる。また、従来の運動組織の方針転換や新たな団体の立ち上げには政策だけではなく、他の社会運動の影響によるフレーミング（問題状況の定義・解釈過程）がみられた。これら2つの側面は、病者・障害者の当事者運動を包括的に研究する枠組として考えられた。

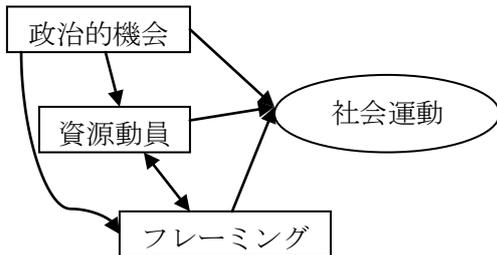
まず、病者・障害者による当事者運動に隣接する研究の特徴には、以下の2つを挙げる

ことができる。第1に、病者・障害者をめぐる研究はそれぞれの個別的な研究にとどまってしまうがちである。第2に、当事者がおこなう自助的な活動が「ケア」などをキーワードとした側面でのみとらえられてしまう。実際には、これらの活動は社会運動へと移行することもある。社会運動から移行した活動もある。

以上の点を踏まえるために、社会運動論における運動組織の分類を用いることができる。クリーズは社会運動組織の利益に着目し、社会運動に関連する組織を4つに分類した(Kriesi 1996)。この分類は、利益を「当局志向-構成員志向」「構成員による参加-構成員の非参加」の2つの軸によって形成される。この4つの分類から、病者・障害者による当事者運動においては当事者運動組織における「運動組織化」や「ラディカル化」といった「過程」の側面をとらえる必要がある。



② 社会運動論では、社会運動の発生や成功の要因について「政治的機会構造」「資源動員」「文化的フレーミング」の理論枠組みを用いる。

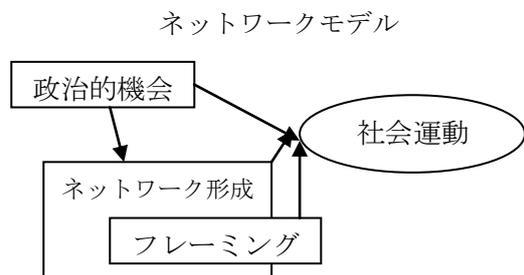


ポーランドの「連帯」に関するネットワーク分析をおこなった Mariane Osa や、イギリスの反精神医学に関連した運動組織ネットワークを分析した Nick Crossley の分析枠組みについて理論的に検討した。当事者運動の組織間連携（ネットワーク）は、当該の国家体制によってネットワーク形成が主張の拡大をもたらすメディアの役割を果たす「ネッ

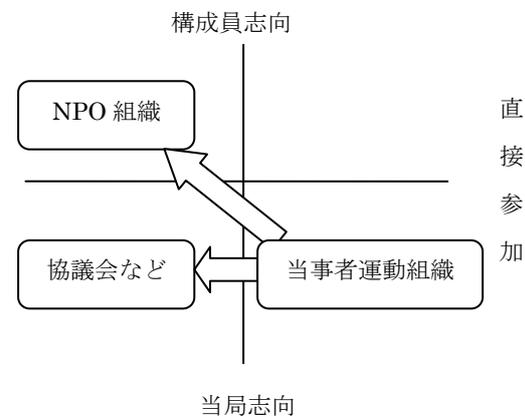
トワークモデル」と、フレーミングによる資源動員と社会計画への参画をもたらす「言説モデル」の2側面から分析することが可能である。この枠組みを用いることで、さまざまな病・障害に関する当事者運動について、その組織に関する全体像である組織間ネットワークに焦点を当てた研究をおこなうことが可能となる。

体制によるネットワークのもつ意味

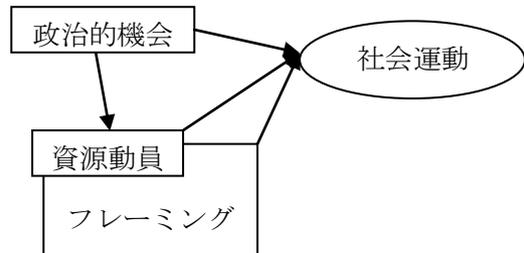
ネットワークモデル	言説モデル
権威主義的国家体制	民主主義的国家体制
対抗運動の資源	組織統合 (コーポラティズム)
社会運動化	社会政策化



社会運動から社会計画へ



言説モデル



(2) 当事者運動に関して、予備調査にもとづいて、「青い芝の会」の活動を日本における福祉政治に位置づけた。また、中部・関西の

障害者運動について研究し、学会発表やシンポジウム成果の公開につとめた。最後に、病者による当事者運動については、政治学における政策ネットワーク論との関係が今後の課題として見いだされた。

① 障害者による当事者運動を中心として予備調査をおこなった。障害者による当事者運動は、戦前からの活動のほか、戦後の知的障害者をめぐる親の会の活動、1970年代の「青い芝の会」神奈川連合会以降の解放運動、1980年代以降の自立生活運動、近年の障害者権利条約をめぐる活動などをあげることができる。また、病者については、政策に関する背景としてスモンなどの薬害問題との関連が課題として浮上した。それぞれの時代において、活動方針に影響を与えたと考えられる歴史的な背景やイベントについての分析が課題として見いだされた。

② 日本の障害者運動の歴史について、1970年代の活動と現代の障害者運動を比較した。日本における代表的な当事者運動であった1970年代の「青い芝の会」の活動は、現代のグローバル化時代における「社会」を考える上での思想的意義も有していることを指摘した。

③ 愛知県の代表的な活動組織である「ゆたか福祉会」についてワークショップを開催した。愛知県における福祉国家内の地方政治のもつ位置づけについて議論をおこなった。

④ 関西における組織間ネットワークについて、セクシャルマイノリティの活動と在日・障害者運動との連携について検討するシンポジウムを開催した。シンポジウムでは次のような課題が見いだされた。：ことなる運動組織間の相互の影響について、セクシャルマイノリティや障害者については同じ日本における福祉政策を背景としている。しかし、その資源動員やフレーミング（問題状況の定義・解釈過程）について違いがみられる。とくに問題解釈とその提示について特徴がある。それは、問題状況を一度解離して＜笑い＞のようなかたちで提示し、問題状況を共有するという手法である。こういった問題状況のフレーミングがおこなわれる際に、とくに個人のアイデンティティを焦点とした実践がおこなわれていることが検討された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

① 渡辺克典、社会運動において語り、伝わり、繋がること、『社会運動で語ること／伝わること／繋がること』、査読無、2011、23-27  
<http://nwudir.lib.nara-wu.ac.jp/dspace/handle/123456789/2654>

② 渡辺克典、障害者運動の歴史と隘路、『反乱する若者たち』、査読無、2010、97-101  
<http://www.arsvi.com/2010/1005wk.htm>

[学会発表] (計5件)

① 渡辺克典、病者・障害者による当事者運動の分析モデル、第83回日本社会学会・大会、2010

② 後藤悠里・渡辺克典・西原和久、社会運動の理論的可能性、第5回日本社会学理論学会・大会、2010

③ 渡辺克典、障害者運動のネットワーク研究に向けて、障害学研究会中部部会 第9回研究例会、2010  
<http://www.arsvi.com/2010/1006wk.htm>

④ 渡辺克典、障害者運動の歴史と隘路、新世代パネル「＜反乱者＞たちとその系譜」、シンポジウム「反乱する若者たち」、2010

⑤ 渡辺克典、「手をつなぐ育成会」における愛知県・名古屋市の位置、障害学研究会中部部会 第8回研究例会、2009  
<http://www.arsvi.com/2000/0910wk.htm>

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ等

<http://www.arsvi.com/w/wk06.htm>

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

渡辺 克典 (WATANABE KATSURNORI)  
名古屋大学・大学院環境学研究科・博士研究員  
研究者番号：60509181

##### (2) 研究分担者

なし

##### (3) 連携研究者

なし